

盲ろう者への理解深めて

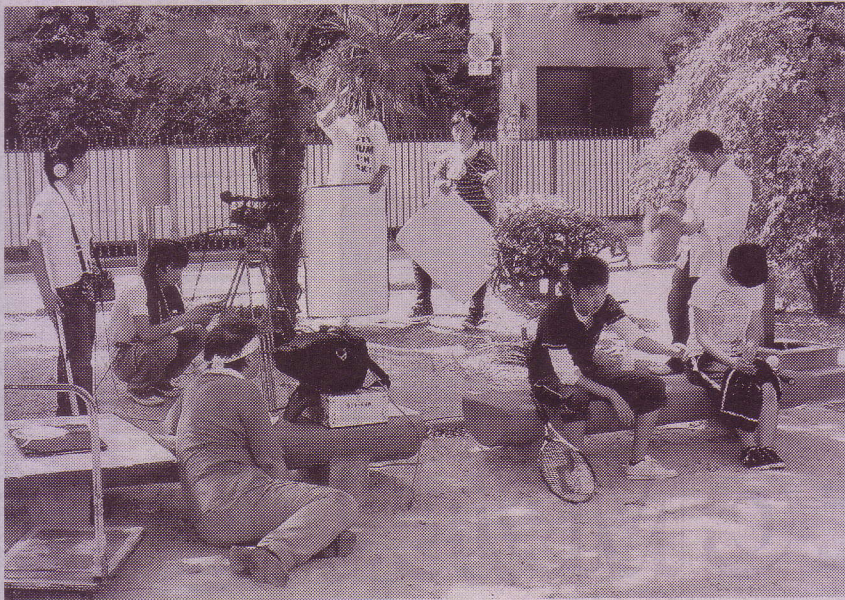
NPOが映画を自主制作

来月13日、イベントで公開

天王寺区

視覚と聴覚の両方に障害がある盲ろう者らのNPO法人「視覚二重障害者福祉センターすまいる」(天王寺区上芝宮町)

が、障害をテーマにした映画を自主制作した。11月13日のイベントで初公開される。



タイトルは「道ゆかば」。同法人創設10周年を記念し、盲ろう者について理解を広げようと制作した。ことし初めに準備にかかり、7月に撮影した。

物語は青年「けんた」が主人公。大学に行きながらも障害のために孤独に陥り、献身的にサポートする女性に出会い立ち直ったかに見えるが、突然、違う苦しみにさいなまれると、ストーリーは展開していく。

演じているのは同法人の関係者。撮影は盲ろう者をテーマにした自主制作映画「道ゆかば」の撮影風景

像の専門学校に通う学生が授業の一環として協力した。現在、11月13日のイベント「第5回盲ろう者のビッグステージ」での公開に向け、ナレーションや最終の編集作業を行っている。

主人公の中年時代を演じた堺市の中本健次さん(57)は「同じ障害があるものとして、死にたくなり、閉じこもってしまった主人公の気持ちとはともよく分かった。映画で盲ろう者への理解を深めてもらえれば」。

モデルになった門川紳一郎理事長(45)は「私たちが障害のあるかわいいそうな人という視点ではなく、普通に泣いたり笑ったりする1人の人間として見てほしいという願いを込めた。好評なら学校などで上映会を開いていきたい」と話している。

(椎葉直)